



1. カルスボ祭(文化の部)をおこないました。

9月22日(木)、カルスボ祭(文化の部)をおこないました。感染予防対策のため、今年度は、体育館において合唱や演奏を鑑賞するグループと、教室において事前に合唱の様子を撮影した映像や作品展示を鑑賞するグループとに分け、それを、前後半で入れ替えるかたちでおこないました。1年生はホリゾント制作や調べ学習の展示、2年生、3年生は合唱、その他、吹奏楽部の演奏や美術科、生徒会本部の作品展示などに取り組み、どの取組も子どもたちの一所懸命さが伝わるとも素晴らしいものでした。取組を進めるにあたっては、全員が揃わなかったり、意見や考えが違っていたりなど、様々な課題があったと思いますが、子どもたちは、優しさや思いやりで互いに理解し合い、乗り越えてくれたと感じています。この取組を通じて、上手に歌うことや演奏すること、作品を上手に作ることに大切なことを学ぶことができたかと確信しています。是非、この学びを次のカルスボ祭(体育の部)に活かして欲しいと思っています。

2. カルスボ祭(体育の部)をおこないます。

10月20日(木)、カルスボ祭(体育の部)をおこないます。感染予防対策のため、昨年度は、子どもと教職員のみでおこない、保護者の参観はご遠慮いただいていたのですが、今年度は、各ご家庭1名のみにはなりますが、参観していただくことができます。是非、子どもたちの頑張りを間近でご覧いただきたいと存じます。なお、PTA 広報ご担当の方のご協力のもと、「PTA だより」に子どもたちの様子を掲載していただく予定です。後日配付される「PTA だより」を楽しみにしていただけると幸いです。子どもたちの取組はすでに始まっています。その様子は、本校のブログでも随時、発信しますのでそちらもご覧ください。よろしく申し上げます。

3. 他人任せの気楽を選ぶか、自分の意志を貫くか

ある先生から紹介された本に「自分で考えて何かをするよりも、他人に命令されての方が気楽である。」「だれかに決めてもらうなり、命令を下してもらった方が楽でいいと思ったりする。」と、興味深い内容が書かれてありました。最近このような風潮を強く感じます。確かに、自分であれこれ考えるよりも他人に決めてもらう方が、考える時間も節約でき、働き方改革につながると感じます。しかし、どうでしょう。自分の意志を持つこと、どんな状況においても自分の意志を貫くことはとても大切だと思います。日本の元女子プロバレーボール選手である栗原 恵(くりはら めぐみ)さんは、自分の思い描くプレーにとことんこだわったそうです。監督の方針やチームのスタイルにただ合わせるのではなく、そういうものと上手く折り合いをつけながら自分のやり方を貫いたそうです。いわゆる意志をもたず、決断できない人ほど結果に過剰反応して、上手くいけば狂喜するが、上手いれない時にはすぐに挫折してしまう。一方、自分の意志を貫ける人はよくない結果に終わっても充実感を味わうことができるようです。

今、社会では自ら考え、自ら行動できる人が求められており、「言われたことをやっているだけでは、結果(パフォーマンス)を出せない！」時代となったそうです。今、結果を出せる人とは「自ら考え、自ら行動できる人」のようです。これは、文部科学省の考え方でもあります。どんなことにもでも夢中になれる、誰かに指示される前に行動できる「やる気や行動力に満ち溢れた子どもたち」を育成したいと思っています。